

# 生成AIが拓く未来の教育 ～可能性と課題～

現代の教育現場は、急速に進化するテクノロジーに対応するための変革が求められています。生成AIは、その中心に位置し、教育のあり方を根本から変える可能性を秘めています。本シンポジウムでは、生成AIの最新技術とその教育への応用について、第一線で活躍する専門家たちが講演を行います。

大学や高校において、生成AIを活用した教育は、個別化された学習体験の提供や、教師の負担軽減、そして新たな教育方法の開発に大きな可能性をもたらしてくれることが期待できます

生成AIがどのように教育の質を向上させ、未来の学びを形作るのかを一緒に探究しましょう。

**日時: 2025年2月23日(日) 13:00~16:00**

**形式: Zoomによるオンライン形式**

**主催: 理数系学会教育問題連絡会**

<https://sites.google.com/site/risukeisocieties/>

## ○プログラム

13:00~13:05 開会挨拶 片山豪 (理数系学会教育問題連絡会会長/日本生物教育学会)

### I 講演 (13:05~14:40)

13:10~13:40 講演1

「生成AIとオンライン教育が教育の未来に与える影響」

金子格 ((一社)日本オープンオンライン教育推進協議会/JM00C, 一橋大学)

13:40~14:10 講演2

「AIによる教育の変革と新たな学びの可能性」 湯本真知 (Google for Education)

14:10~14:40 講演3

「生成AIを活用した教育実践方法と実践事例紹介」 中村大輝 (宮崎大学)

### II パネルディスカッション (14:55~15:55)

テーマ: 「生成AIが教育に与える影響と今後の展望」

モデレーター: 竹内 光悦 (理数系学会教育問題連絡会 運営委員/日本統計学会)

パネリスト: 金子格, 湯本真知, 中村大輝

15:55~16:00 閉会挨拶 市川洋 (理数系学会教育問題連絡会副会長/日本地球惑星科学連合)

# ○講師紹介・講演内容

## 「生成AIとオンライン教育が教育の未来に与える影響」

金子 格

(一社)日本オープンオンライン教育推進協議会/JM00C, 一橋大学)

講演の内容：生成AIとオンライン教育の拡大は、レガシーの学びに変革を起こしつつあります。また、マイクロレデンシャルとディープナレッジトレーニングは、成績の透明性と信頼性を高める可能性があります。短期的には、個別化学習や教師の負担軽減が期待されますが、長期的には教室での学習とオンライン教育、そしてAIを組み合わせたハイブリッド教育法の追求が必要です。AIとオンライン教育がレガシーの学びを向上させる結果、教育機関にとって、学習者が自身の未来に向き合い、自発的な学びに取り組むという、自立的・自発的人格を涵養する役割の重要性は、いっそう高まると考えられます。

## 「AIによる教育の変革と新たな学びの可能性」

湯本 真知 (Google for Education)

講演の内容：本講演では、AIの教育分野における応用の可能性について焦点を当てます。まず、AIが教育者不足や学習者の多様なニーズに対応する方法を示し、Googleが提供する技術やツールの活用事例を紹介します。また、AIを活用したパーソナライズ学習、アクセシビリティの向上、教育の公平性の推進について議論します。さらに、Googleが掲げる責任あるAI開発の原則に基づき、データのプライバシー保護や教育現場における具体的な導入方法について解説します。本講演を通じて、AIが教育の未来にどのような可能性をもたらすのかを一緒に考える機会を提供します。

## 「生成AIを活用した教育実践方法と実践事例紹介」

中村 大輝 (宮崎大学)

講演の内容：生成AIの活用が理数教育に与える影響について、世界的な研究動向を紹介し、日本の学校における実践事例や教室への導入方法を取り上げます。具体的には、生成AIが理数分野で発揮する性能とその活用可能性を分析するとともに、教育現場における課題や文部科学省のガイドラインに基づく対応・ルール作りを紹介します。また、生成AIの登場による授業形態や学習方法の変革についても触れ、理数教育の新たな可能性を探るための視点を提示します。

○参加申し込み 事前登録制 (参加費無料) 先着250名

URL: <https://forms.gle/AQJaEAKCTFGmSzmK9> (右QRコード)

○締切 2025年2月15日 (土) (250名に達したら締切ります)

○その他 メディアからの取材はお断りします。

アーカイブ配信はいたしません。

○連絡先：片山 豪 [katayama@takasaki-u.ac.jp](mailto:katayama@takasaki-u.ac.jp)

